

1

P62(19) (例)

大助君、こんにちは。お元気ですか。さて、11月12日に青井山市で開かれる、レインボウオープンテニスの無料招待券が手に入りました。いっしょに行きませんか。当日は青井山駅から会場までの無料バスが出るそうなので、9時に青井山駅で待ち合わせたいなと思っています。8時21分に小谷島駅を出る電車に乗ってもらえると間に合うと思います。都合を聞きたいので、もしよければ、自宅の電話番号を教えてください。それでは、また。

(別例)

こんにちは。大助君は、テニスが好きだったよね。今度のレインボウオープンの招待券が2枚あるから、いっしょに行こうよ。お金はいらないよ。大助君は、行きは小谷島駅を8時40分に出る急行に乗って、青井山駅でぼくと待ち合わせて送ってバスに乗ろう。帰りはぼくのお父さんが車でむかえに来てくれるからね。あと、当日のことで連らくを取り合うのに電話番号がいたと思うから、教えてくれるかな。では、お返事を待っているよ。

《解説》

人になにかを伝えるときは、「(だれが) いつ、どこで、どうする」のかを、具体的に説明するように意識しましょう。この問題の場合は、まず、「(ぼくが) 11月12日に青井山市内で開かれるテニス大会の招待券を持っていて、大助君といっしょに行きたいと思っている」ということを必ず伝えます。次に、そのようなさそいを受けた大助くんが、どのようなことを知りたがるだろうかと考えます。少なくとも、チケット代はかかるのか、当日は何時にどこに行けばいいのかということは伝えておく必要があるでしょう。また、大助くんはテニスの観戦が好きだということですから、具体的な大会名も教えてあげるとよいでしょう。

2

P61(20)

1 (例) ②番の部屋が大学にいちばん近いし、近くに図書館や博物館があって、調べ物にも便利だと思う。それに、部屋にベランダがついているから洗たくものをたくさん干せるし、日当たりもいいんじゃないかなあ。

(別例) なんととっても大学に一番近いじゃない。近くに商店街があって買い物にも便利だし、図書館が近いのは勉強するときがいいよね。それに部屋自体も、収納スペースがちゃんとあるから、部屋がきれいにかたづくと思うの。

2 (例)

なおこさんのお母さんが①番をすすめなかった理由はいくつかあると思います。まず、空港が近くにあるため、そう音になやまされる可能性があります。また、周囲には民家がないため、夜道は明かりがなく、一人で歩くのは危険ではないかと思います。さらに、部

1 表やグラフの読み取り

1

P79(2)

1 18 (館)

2 千葉県

3(1) ア

(2) (例) それぞれの図書館にどれくらい本があるのかわからないから。

(別例) 図書館により、貸し出し方法や期間がちがうかもしれないから。

《解説》

1・2 表にはたくさんの数字が並んでいます。問題を解くのに必要な数値は、線を引いたり、丸で囲んだりして、ほかの数値と区別しておきましょう。

3 このグラフからは、各都道府県の図書館の数は分かりますが、各図書館に収められている本の数(蔵書数)やサービス内容については分かりません。ですから、このグラフだけでは、熊本県が最も図書館の本を借りやすい環境であるかどうかということは判断できません。このように、グラフからは読み取れない点についても考えてみるのが大切です。

2

P77(4)

1 ① 煮しめ ② なます ③ 筑前煮(いり鶏)

2 (例) 回答者の四分の三が用意するが、九割以上が買ったものだ。

3 (例) 煮しめは手作りやもらい物が多く、昆布巻は買ったものが多い。

《解説》

まずは、グラフの読み方をしっかりおさえておきましょう。グラフに出てくる「用意率」「購入率」といった用語の意味を理解した上で、各項目を見ていく必要があります。

1 黒い部分の長さを比べます。黒い部分の長い品目ほど、手作りまたはもらい物によって用意されることが多いものと分かります。

2 ほかの項目と比べ、かまぼこのグラフがどのような点で目立っているか考えましょう。まず、用意率の数値が一番大きい(75.8%)ということが言えます。さらに、グラフの白い部分がほかの品目に比べて長い(=購入される割合が大きい)という点にも着目し、この2つの特徴をまとめて答えを書きましょう。

3 「ちがい」(相違点)を聞かれている問題ですから、2つのグラフを見比べたとき、ちがいが目立つのはどういう点かということを考えましょう。

3

P76(5)

1 A市

2(1) B市

(2) (例) 交通の便が良く、高齢者に対する福祉が行き届いているから。

3 (例) 子どもに対する福祉を豊かにし、スポーツ施設の数を増やす。

《解説》

1 5つの項目の頂点を結んでできた五角形が大きい方が、総合的な評価が高いということが出来ます。このように、グラフは各項目を比べるだけでなく、全体を見て比べることが必要な場合もあります。

2 70代と50代の夫婦が生活するときに、必要な住民サービスは何かということを考えましょう。足腰が弱っているお年寄りには、交通の便が良い(電車やバスなどの公共交通機関が充実している)うえ、高齢者福祉が充実しているB市の方が、A市よりも住みやすい環境であると考えることが出来ます。反対に、小さい子供のいる家庭は、児童福祉やスポーツ施設が充実しているA市の方が住みやすいといえるでしょう。

3 住みやすい街を作るには、まず、住みにくいところや、サービスが行き届いていない点を改善する必要があります。このグラフでは、数値が小さい(中心の0に近い)項目ほど、対策がおくれている分野だということ出来ます。B市の場合は、児童福祉とスポーツ施設の評価が低くなっていますから、この2つを優先的に充実させることが必要だといえるでしょう。